

部活動などの活躍

《ソフトテニス部》

第31回東京都中体連東部中学校

ソフトテニス研修大会 **第3位**

〇〇〇〇さん(2-2)、〇〇〇〇さん(2-4)



第33回東京都中学校第5・6ブロックソフトテニス研修大会 **団体戦ベスト8**

ソフトテニス部 女子

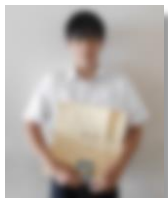
本校に体操部、水泳部はありませんが、校外のクラブチームで活躍する生徒もいます。

関東中学校体操競技大会出場!

〇〇〇〇くん(3-1)

第56回東京都中学校総合体育大会

男子ゆか **第3位**、総合 **第5位**



オリンピック強化選手

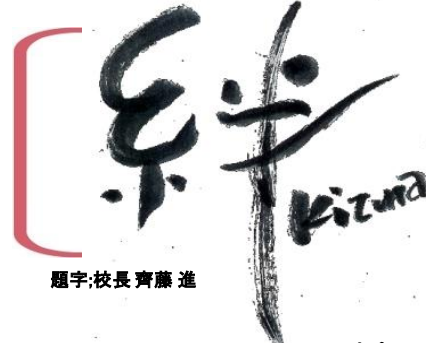
〇〇〇〇さん(2-4)

第65回東京都中学校学年別水泳競技大会 **2年女子400m自由形 第4位**



JRC委員会よりご報告!

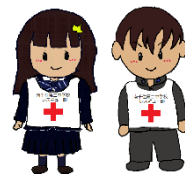
7月に行われた募金活動では、4日間で25,651円の募金が集まりました。この募金は、JRC委員会によって荒川南千住五郵便局から日本赤十字社へ九州北部豪雨災害義援金として送られました。皆さまの善意とご協力、ありがとうございました。



題字:校長 齊藤 進



学校だより
平成29年9月
第77号
荒川区立南千住第二中学校



ナンちゃん・ニーくん

道徳授業地区公開講座 を終えて

校長 齊藤 進

9月16日(土)に道徳授業地区公開講座が行われました。

1学年は「生命尊重」、2学年は「家族への敬愛」、3学年は「理想の実現」をそれぞれのテーマとして授業が行われました。

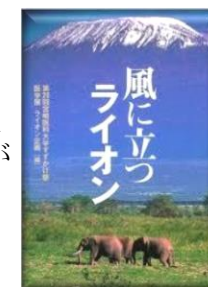


1学年では11組の親子を招きました。お母さんから子育ての話を聞き命の尊さについて考えを深める機会をもつことができました。実際に赤ちゃんをだっこした時の生徒の表情は説明するまでもありません。どの生徒も赤ちゃんの笑顔に癒され改めて命の尊厳や大切さを実感したと思います。ご協力いただきました地域および関係者の皆様深く感謝申し上げます。

2学年は「貨物列車が運ぶもの」の資料を活用しました。この資料は本校の西窪秀子先生が自ら書き上げたもので、地元の貨物隅田川駅を舞台に親子の家族愛について考えさせる内容でした。南千住第二中学校ならではの資料で隅田川駅の歴史にも触れ、読み応えのある貴重な内容となっています。何らかの機会を通して他学年の生徒や保護者の皆様にも資料の内容をお伝えしたいと思います。



3学年は「風に立つライオン」を資料として扱いました。アフリカのケニアに赴任した医師が日本にいる恋人との絆を絶ってまで現地での医療活動に人生をかける内容です。生徒の発言から多くの生徒が尊い理想をもった主人公の生き方に共感を覚えたことがうかがえました。進路選択を踏まえこれから生徒自身の生き方について考えを深める授業となりました。



各学年が扱う内容を精選・工夫し生徒の興味関心を高める授業を展開することができたと思います。当日は学校評議員および保護者の皆様を交え意見交換を行いました。貴重なご意見を頂くことができました。ありがとうございました。

南千住マイスターのコーナー

南千住と歴史上の人物 その5 『安政の大獄(2) 橋本左内』

小塚原回向院には、前号で紹介した吉田松陰の他にも安政の大獄の刑死者の墓があります。橋本左内(はしもと さだなり)もその一人です。

橋本左内は、福井城下の藩医の長男として生まれました。幼い頃からその才覚は目を見張るものがあり、藩医を継いだ後も江戸に出て梅田雲浜や藤田東湖、かの有名な西郷隆盛らと交流をもちます。その後藩に呼び戻され、藩主松平春嶽の側近という役に就きました。

安政四年(1857年)に江戸詰めとなり、再び江戸に戻ると、朝廷を尊重し、幕府の独断ではなく、諸侯による話し合いで事(日米修好通商条約など)を決定すべきといった自論を展開したり、日露同盟論、西欧の先進技術の導入など、世界的視野に立った国家思想を語り、幕府のいや、この国の改革を主張します。さらに、そのとき持ちあがっていた一橋派と南紀派との將軍継承問題にも巻き込まれます(左内は一橋派)。これらの行動が、安政の大獄による弾圧の対象となり、安政五年(1858年)10月に捕縛され、翌年10月7日、斬首となり南千住回向院に葬られたのです。わずか26年の生涯でした。

昭和8年、この墓を守り、左内の功績を広めるために套堂(さやどう)がつくられました。その後の改修のとき、回向院にあった旧套堂は荒川区に寄贈され、平成21年(2009年)にふるさと文化館前に復元され、中には左内の銅像が飾られています。

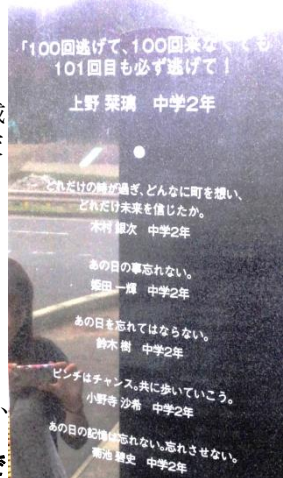


ふるさと文化館 橋本左内像・套堂

ところで左内は、わずか数え15歳の時(現在の中学2年)に、自らを奮立たせるための『啓発録(けいはつろく)』を著しています。その冒頭には5つの大事な事が書かれてあります。それは、① 雅心を去る ② 毎日遊び呆けて楽な方へ専らし、何かと言えれば親に頼ろうとするような子供じみた心は、早く捨てる事。③ 振気(ふき)人に負けたくないという気持ち大切に、自分を奮い立たせる事。④ 立志(りし)目標をはっきりと決めて、それに向かって努力する事。⑤ 勉学(べんがく)学(まな)ぶ事は、本を読んで知識を増やす事ではなく、先人に習って、自分も負けまいと努力し、真の知識を高め心を鍛える事である。⑥ 朋友(とも)を ⑦ 自分を慕ってくれる友人は大切にしなければならぬ。また、自分の欠点を指摘してくれる厄介な友人を大切に、友人の見習うべきところは見習って、自らを高めてくれる友人を持つ事。私たちが今の生き方に、ヒントを与えてくれる深い言葉とは感じませんか。一度全文を読んでみてはいかがでしょうか。

荒川区中学生被災地派遣

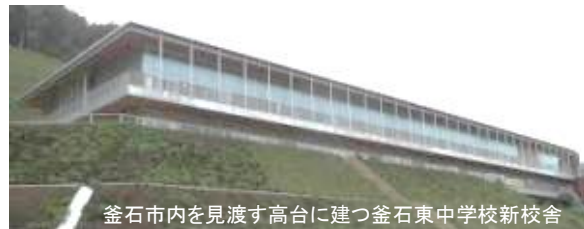
今年も荒川区中学校防災部による釜石市などの被災地訪問が行われました。南千住二中の代表として参加したのは、〇〇〇〇さん(2-2)と〇〇〇〇くん(2-4)の2年生2名です。8月2日・3日の2日間にわたり、宮城県南三陸町や岩手県釜石市の復興のようすを見学したり、釜石東中学校の生徒から当時の体験談を聞いて、災害時の避難経路などについてグループディスカッションを行いました。初日に訪れた南三陸町旧防災対策庁舎は、鉄骨だけが残されたままで、その姿は衝撃的で、震災の記憶として心に刻まれました。津波が迫る中、最後まで避難を呼びかけた女性職員をはじめ多くの亡くなった方々へ献花し、ご冥福を祈るとともに、万一の時、迅速で確実に避難活動を行うことを心に誓いました。釜石東中学校では、震災から6年経った今年4月に新校舎が完成していました。海拔15～26mの高台に建つ校舎は、緊急時の避難所としての役割をもち、敷地斜面には8カ所の避難階段が設けられていました。三陸地方では、『いのちでんこ』という言い伝えがあり、「津波が来たら、家族がでんで



中学生による防災記念碑

バラバラでもとにかく逃げろ」という教訓に基づいた防災教育が行われ、「自分の命は自分で守る」を目標に、「その時にできる最善をつくす」ために、日頃から真剣に防災訓練に取り組んでいました。

被災地を訪れ、震災の体験談を聞いて、震災の悲惨さを実感するとともに、震災の教訓を未来に伝えていき、そして、「今私たちにできること」を考え、さらに防災について意識を高めていく決意を新たにしました。



釜石市内を見渡す高台に建つ釜石東中学校新校舎

JRC 三首都交流会・都トレセン

南千住二中が加盟するJRC(青少年赤十字)において、夏休みに2つの教育プログラムが行われました。

7月24日(月)から7月29日(土)までの6日間にソウルで開催されたのが三首都交流会です。これは東京(日本)、ソウル(韓国)、北京(中国)三都市の中学生代表が集まり、活動を報告したり、交流を深める事業で、今年ソウルを会場にして実施。南千住二中からは、〇〇〇〇さん(2-2)が代表に選ばれ参加しました。ソウルに着いた初日は大浦さんの誕生日で、サプライズパーティーからはじまり、参加した皆さんとの交流が広がり、グループに分かれてソウル市内を散策したり、ボランティア活動で配布するパン作りなどを通して、さらに交流を深めることができました。各国の文化の紹介や活動内容の報告、民族衣装や伝統料理の紹介なども行われ、言葉や文化の違いを越えて、お互いを理解し協力できることを確かめ合う有意義な6日間でした。

三首都交流会の参加者全員で記念撮影。

韓国の民族衣装を体験。

JRCのリーダーを養成する学習活動で、今年も、〇〇〇〇さん(1-2)と〇〇〇〇さん(1-3)の2人が荒川区の代表として参加しました。4日間にわたり、障がい者や妊婦の体験、目隠しをしてお互いに声を掛けながら歩くフィールドワーク、救命救急訓練などを通して、相手の立場に立って考え、自分のできることで、他の人の役に立ち、自分を活かす知識や技術、行動などを学びました。

三首都交流会やトレセンで得た経験と知識が、これからのJRC活動に大いに活かされることを期待します。

PTAソフトボール大会



おめでとうございます!



8月27日(日)に、荒川区内の中学校10校が参加して、区内中学校対抗PTAソフトボール大会が行われました。本大会に南千住二中は5年前から参加し、一昨年、昨年と惜しくも準優勝が続きました。今年こそ優勝の機運は高まり、選手として集まった保護者、教職員は20名以上に上りました。試合は、5校ずつの2リーグ制によるトーナメント戦で行われました。初戦は、昨年度優勝チームの七中と対戦。接戦の末2点差で敗戦しました。しかし、ここでチーム

の絆が固く結ばれ、闘魂に火が付き、チームプレーで対戦相手を抑え、保護者の皆さんからは次々にヒット、ホームランが飛び出し、その後の3試合を対戦相手に10点以上の大差をつけ勝利。リーグ戦を勝ち抜いて決勝進出を果たしました。

決勝では、毎年優勝候補に上る強豪三中と対戦。応援にいらしたご家族や地域の皆さんからの熱い声援を受けて、南千住二中が常にリードしての試合を展開しました。勝利を決定づけたのは、南千住二中のキヨミヤこと清宮(せいみや)先生の場外大ホームラン! 見事に三中に勝利して初優勝をおさめました。表彰式では、優勝カップと副賞にテント一張りを授与されました。色々な行事で使うテントの数が足りず、毎回借用していたとあって、この副賞には皆大喜び! 残暑の厳しい日でしたが、その暑さを吹き飛ばすほどの好プレーの連続に、グラウンドは大盛り上がりで、選手からも応援にいらした皆さんからも笑顔と歓声があふれる一日となりました。選手の皆さん、お疲れさまでした。優勝おめでとうございます!

連合体育大会壮行会

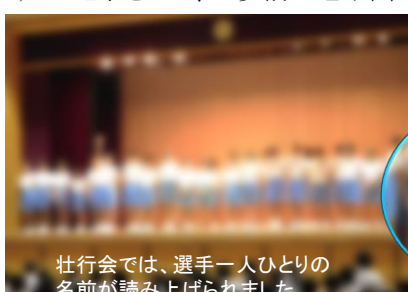
9月に行われる荒川区連合体育大会に向けて、8月29日に各種目の選考会が行われました。参加者はみな全力で取り組み、記録を競い合いました。好記録者の中から選手団として、短距離、長距離、走り高跳び、走り幅跳び、砲丸投げ、リレーの全6種目の代表77名が決まりました。

2学期に入り、校庭を使って連体に向けての放課後練習が始まりました。夏の強い日差しが残る中で、選手団も体育科を中心とした指導教員も1秒でも早く、1cmでも遠くを目指して毎日練習に励みました。秋の長雨が続く日には、ドームなどで筋トレを行うなどして、フォームの調整や、体力づくり、筋力アップに取り組まれました。

連合体育大会の前日の20日には、アリーナで生徒会本部が企画・運営した壮行会が行われました。開会の言葉に続き、ブルーノ・マーズの軽快な音楽に乗せて、選手団が各種目ごとに入場しステージに上がりました。選手団一人ひとりの名前が読み上げられ紹介されると、全員連体への決意を込めて大きな声で返事をして、一歩前に進み出て挨拶をしました。生徒会長の〇〇〇〇さん(3-3)から「南二中の絆とパワーはどこにも負けないと思うので、全力を尽くしてください。」と激励の言葉を送ると、選手団を代表して〇〇〇〇くん(3-2)が「応援してくれる全ての人の思いを背負って明日は戦ってきます。心はひとつです。声援送ってください。」という決意表明で答え、会場は大いに盛り上がりました。



選考会の様子



壮行会では、選手一人ひとりの名前が読み上げられました。

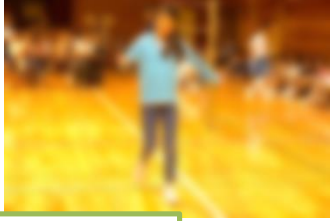


選手団代表〇〇くんの決意表明

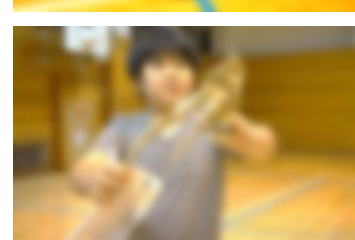
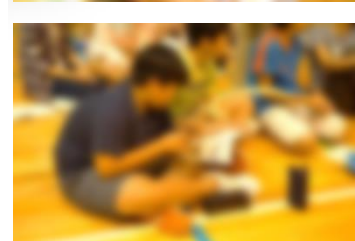
連合体育大会での奮闘の様子や結果については10月号で紹介します。

1年生 清里移動教室

レク大会



清里の自然とふれ合う会



ブドウ狩り



晴天に恵まれた3日目、笛吹川フルーツ公園に全員集合して記念撮影。

1日目

9月6日(水)～8日(金)の3日間、「清里移動教室」が行われました。集合時間に全員が揃い、見送る先生方に明るく元気のいい声で挨拶をして、バスに乗り込みました。今年のスローガンは『**自然の偉大さを学び、楽しい思い出を作ろう**』。「清里の雄大な自然の中で、ともに助け合い、学び合い、友情を深め、最高の思い出となる清里にしたい」という思いが込められています。

清里に向かう道中、雨雲に覆われていた空も、皆の願いが通じたのか、最初の目的地・清泉寮に到着する頃には、雲の切れ間から青空がのぞくほどに回復。芝生の上でお弁当を食べた後、美し森オリエンテーリングに出発しました。1組1班から順に班ごとにスタートし、美し森山の山頂にある展望台を目指すコースで、途中地図に示された“南千住二中オリジナルポスト”を探して、ポストに書かれたクイズに答えて、記録していきました。道に迷って、最初のポストを発見するのに1時間かかったり、ぬかるんだ道に苦戦して足元が泥にまみれてしまった班もありましたが、**お互いを励ましあいながら、全班が制限時間内に到着**できました。ゴールの美し森展望台では、ソフトクリームをいただきました。およそ1時間半の山歩きあとの冷たいソフトクリームは格別でした。

宿泊施設の少年自然の家に着くと、入園式を終えて、美化保健係、入浴係、食事係などの**それぞれの係に分かれ、各自が自主的に活動**。3日間を通して、**ともに協力して、時間を守り、整理整頓した部屋で快適に過ごす**ことができました。おいしい夕食をいただいた後は、レク係が用意した、ドッジボール、箸豆リレー、風船パレーなどのゲームを行いました。なかでも箸豆リレーは、クラス対抗戦ということもあり、みんな大興奮。大きな声援とミスしたときのどよめきに体育館がつつまれ、大盛り上がりのレク大会でした。

2日目

2日目の朝は霧雨。リフト乗り場でクラス写真を撮影した後、リフトを乗り継いで、車山の山頂を目指しました。1つ目のリフトに乗る頃には、大粒の雨が降り始め、2つ目に乗り換えて頂上に着くと、そこは嵐の最中。強風と矢のように襲いかかる雨に立っているのがやっど…。すぐにリフトで下山となりました。しかし、乗り継ぎ地点で点呼すると、最後尾で降りてくるはずの4組がいません。強い風雨の中、数m先も見えず、不安の中時間だけが経過していきます。30分ほど経ったでしょうか、リフト

を使わず歩いて山頂に向かおうとしていた勇気ある4組が無事下山して、全員喜びの再会となりました。学園に戻り、お風呂で温まり、ひと息ついた後は、室内でレンジャーさんが自然とふれ合う会を開いてくれました。**清里の豊かな自然と様々な動植物について話をうかがい、木の実やリスの剥製、鹿の角に触れて、楽しく学習**できました。

3日目

朝から青空が広がりました。みんなが楽しみにしていたブドウ狩りに出かけました。ブドウ畑では、お土産用のひと房を夢中になって選びました。そしてお待ちかねのシャインマスカットや巨峰など

の6種類のブドウを食べ比べて大満足！笛吹川

フルーツ公園でお昼を食べ、お土産を購入し、たくさんの思い出も一緒にバスで帰路につきました。自然の偉大さに触れ、ともに協力して学年の絆が固く結ばれた3日間でした。



ゴール!

オリエンテーリング



中学生科学コンテスト

東京都内の中学校に在籍する中学1、2年生が3人1組でチームを作り、理科・数学などの能力を競い合う「中学生科学コンテスト」が8月27日(日)に、都立富士高等学校附属中学校と都立立川国際中等教育学校の2校を会場として開催されました。今年には都内の国公私立中学校87校から176チームが参加。昨年の初出場に続き、今年も南千住二中からは2年生の2チームが出場しました。1チーム目は、〇〇〇さん(2-2)、〇〇〇さん(2-2)、〇〇〇くん(2-3)の3人。全員が陸上部に所属するという文武両道チームです。2チーム目は、昨年初出場ながら実技部門で優秀賞に輝いた〇〇〇くん(2-4)と理科のひらめきに長けた〇〇〇くん(2-4)がタッグを組みました(この日1人が欠場)。当日は、理科の複数分野から出題される筆記競技に70分間、ものづくりとコミュニケーション能力を駆使して課題に取り組む実技競技に90分間取り組みました。初めて出会う難しい問題に、チームで作戦を立てて協力して挑戦しました。実技競技では、ボール紙と水糸、1個約11gの消しゴムを使って、質量測定装置を作製するという思考力と技術力、チームワークが求められる難問でした。質量がわかっているのは消しゴムのみで、これを分銅代わりにして、天秤状の装置を正確に作らなければなりません。この課題に対して、〇〇さん・〇〇さん・〇〇くんチームは、さお状の測定装置を作り、片側におもり代わりの消しゴムを固定し、測定物の位置をずらしてバランスを取り、つり合う位置でこの原理から計算をして測定物の質量を高い精度で求め、全チームの平均が76.2点のところ、184点という好成績を収めました。2チームともに、筆記競技でも平均点を大きく上回ることができました。個々の持てる力を試して、科学に対する興味・関心をさらに深める機会となりました。



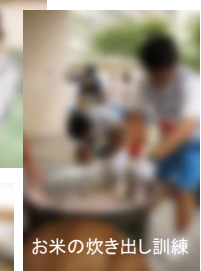
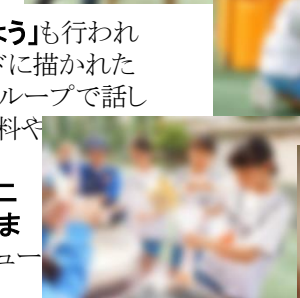
会場となった富士高校前にて

夏季防災訓練

毎年恒例となっているレスキュー部の夏季防災訓練が8月25日(金)に実施されました。今年には約150人のレスキュー部員が参加。南千住二中が災害時に避難所となることを想定し、3つのグループに分かれて訓練を行いました。それぞれが、トイレ・ベッド・投光機・発電機の機器の組み立てや操作をアリーナで体験したり、緊急時にハイゼックスという炊飯袋に米と少量の水を入れて輪ゴムでしばって密閉し米の炊き出し方法を学んだり、希望者は普通救命講習を受けるなどしました。その後、近隣の高齢者の皆さんを学校まで誘導し、全員で炊き出しのカレーライスを試食。夕方からは、野口先生によるグループワーク「みんなでわけよう」も行われました。数人ずつのグループに分かれて、配られたカードに描かれた毛布やおにぎりなどをどのようにして公平に分けるかをグループで話し合い、協力して楽しみながら、緊急時の迅速で公平な食料や日用品の配布方法を学びました。今回の防災訓練も、《気づき、考え、実行する》の南二中精神のもと、生徒は自主的に必要なことを考え行動しました。訓練後の片づけ、清掃も自発的に行うなど、レスキュー部のメンバーの成長を感じる1日となりました。



D級ボンブによる消火訓練



お米の炊き出し訓練



仮設トイレの設営



グループワーク

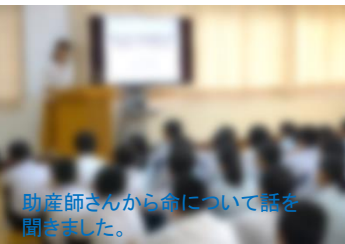


救急救命講習

道徳授業地区公開講座

9月16日(土)の授業公開日に道徳授業地区公開講座が行われました。今回の授業テーマは、1年生「生命尊重」、2年生「家族への敬愛」、3年生「理想の実現」でした。1年生は、赤ちゃんとお母さん方11組と助産師さんをお招きして、妊娠・出産についての話や赤ちゃんを育てているお母さんの体験談などを聞き、命の尊さについて考え、人が生まれて育つことの素晴らしさと大変さなどを学びました。グループに分かれて、赤ちゃんとおふれ合う体験では、かけがえのない命を抱いて、その大切さ、温かさを感じ優しい気持ちになりました。2年生は、西窪先生が自ら書かれた“貨物列車が運ぶもの”を資料に、仕事を選ぶことも家族を選ぶことも、自分のまわりにいる人たちに対する思いやりを考えた行動であることに気づき、家族への敬愛の念を深めました。3年生は「風に立つライオン」のCDを聴いて、ケニアに赴任した医師がかつての恋人に寄せた手紙に込められた医師の心情をとらえ、理想を求めて生きる姿を通して、自己を振り返り、自分の生き方について考えました。

授業後の協議会では、PTAや評議員の皆さんと教員で活発な意見交換が行われ、中学生の道徳教育の果たす役割への重要性和期待を改めて確認させていただきました。ご来校いただきました皆さま、ありがとうございました。



助産師さんから命について話を聞きました。



赤ちゃんとお母さん方を囲んで出産や子育ての体験談を聞きました。



わくわく街歩き探検隊

南千住二中生がボランティアガイドとして地域の史跡・文化財の歴史や言い伝えなどを紹介する「わくわく街歩き探検隊」が9月10日(日)に行われました。今年には14人がガイド役を務め、小学生と一緒に、二瑞小からスタートして、浄閑寺、都電三ノ輪橋駅、西部ひろば館、東京スタジアム跡(スポーツセンター)、千住製絨所跡(赤レンガ)、素盞雄神社を巡り、二瑞小へ戻ってくるコースを回り、途中の浄閑寺、都電三ノ輪橋駅、東京スタジアム、千住製絨所について、わかりやすく丁寧に説明をしました。クイズを加えたり、史跡にまつわる物語を交えるなどして趣向をこらした説明は、“楽しい！面白い！”と小学生に大好評でした。この日街歩きを楽しんだ小学生にとって、これまで何気なく毎日通り過ぎていた景色が、その長い歴史などに触れて特別に輝くものになり、南千住の街をさらに好きになったことでしょう。ボランティアガイドを務めた皆さん、お疲れさまでした。



ボランティアガイドを務めた皆さん



▼浄閑寺にて

▲都電三ノ輪橋駅前